

令和元年度

【優秀作品集】

「大切な命を守る」
全国中学・高校生作文コンクール

警察庁 犯罪被害者支援室

発刊にあたって

犯罪被害者やその家族・遺族（犯罪被害者等）が、再び平穏な生活を取り戻すことができるようにするためには、犯罪被害者等を直接対象とした支援のみならず、地域社会や学校・職場、さらには将来の社会を支える子どもたちに、犯罪被害者等が抱える困難や思いについて理解を深めていただき、社会全体に犯罪被害者等を思いやり、犯罪被害者等を支える気運を醸成していくことが極めて重要です。

このような観点から、全国警察では教育委員会や民間被害者支援団体等と連携して、これからの社会を担う中学生・高校生を対象に、犯罪被害者等による講演や犯罪被害者等の手記の朗読等により、犯罪被害者等が受けた様々な痛み、子どもを亡くした親の思い、命の大切さ、被害者も加害者も出さない社会を望む犯罪被害者等の思いを伝える「命の大切さを学ぶ教室」の開催に積極的に取り組み、警察庁では、この「命の大切さを学ぶ教室」の効果を一層向上させる施策として「命の大切さを学ぶ教室全国作文コンクール」を開催してきました。

この作文コンクールにつきましては、今年度からは「命の大切さを学ぶ教室」受講者に限らず、中学・高校生が命の大切さに関する多様な機会に感じた考えや意見等についても作文にすることにより、犯罪被害者等への理解を更に深め共感を生む効果を期待し、コンクルールの名称を「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクールに改めるとともに、応募資格を命の大切さを学ぶ教室受講者以外にも拡大するなどの見直しを行いました。

これにより、「令和元年度「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクール」では、犯罪被害者等への支援や命の大切さについて考えた全国の中学・高校生から、これまで以上に多様な意見が述べられた作品が集まり、その中から優秀作品を選考しました。

本冊子は、全国から応募された作品の中から選考された、

- ・ 国務大臣・国家公安委員会委員長賞……………二点
- ・ 文部科学大臣賞……………二点
- ・ 警察庁長官賞……………六點

を取りまとめたものです。

警察としては、被害者支援に携わる方々との緊密な連携の下、犯罪被害者等支援に関する施策に取り組んで参りますが、本冊子が、犯罪被害者等が長期にわたり直面する心身の苦痛やその置かれた厳しい状況等はもとより、被害者支援の重要性等について、広く国民の皆様方に御理解いただく一助となりますことを心より願っております。

令和二年三月

警察庁長官官房審議官（犯罪被害者等施策担当） 山田 知裕

☆高校生の部

【国務大臣・国家公安委員会委員長賞】

・目に見えない命

千葉県立千葉女子高等学校

一年 宮澤 結友

……

14

【文部科学大臣賞】

・尊き命のために

学校法人滝学園滝高等学校

三年 坂田 侑美奈

……

16

【警察庁長官賞】

・死にたかった私 これからの私

富山県立高岡工芸高等学校

三年 澤田 彩夏

……

18

・流れていく時の中で

大分県立中津東高等学校

三年 城 侑市

……

20

・若い命の尊さ

茨城県立大洗高等学校

三年 谷脇 恭平

……

22

若い命の尊さ

(茨城県)

茨城県立大洗高等学校 三年

谷脇 たにわき

恭平 きょうへい

私は学校で開催された「いのちの講演会」に参加しました。そこで、泥酔状態のドライバーが起こした事故でご子息を亡くした岩寄悦子さんの講話を聴きました。

岩寄さんは講話の中で「息子を亡くしたとき、悔しい気持ちで押しつぶされそうになった。」「事故から三年半の間、自分を責め、色も感じる事ができなかった。」など最愛の息子を失った悲しみを私たちに語ってくれました。そして「命は自分だけのものではなく、自分がどれほど大切な存在で、代わるものがないということを理解し、生活を送ってほ

しい。」と私たちに強く語ってくれました。

私はこの講話を聞いて、「いつも通りに過ごしていても、いつ、命を落としてもおかしくはない」と深く感じました。そして事故によって日常の生活を奪われた人達に思いをさせてみました。恐らく精神的苦痛に追い込まれて、現実を遠ざけるのではないかと思いました。

また、岩寄さんが大切な家族を失った気持ちを他の人に話す勇気がなぜ持てるのかと不思議に思うようになりました。この「いのちの講演会」は、命の重さ・尊さを学ぶものだと思います。そのためとはいえ、全国で講話をするという岩寄さんの強い意志は素晴らしいと思いました。自分の息子さんのように辛い体験をする人を減らしたい。自分のように家族を亡くすような辛い思いをする人を減らしたい。そのためには事故の恐怖を少しでも多くの人に知ってもらいたい。岩寄さんの言葉にはそのような気持ちが詰まっていました。

私は事故に遭った人の気持ちがいさだけ分かりま

す。それは、過去に事故に遭ったことがあるからです。

小学一年生のとき、学校からの帰宅のためにいつも通る道をいつものように歩いていました。そして駅前の変差点にさしかかりました。私は歩行者の信号が青になっていたことだけを確認し、横断歩道を渡り始めました。そのとき一台の大型トレーラーが猛スピードで交差点に入ってきました。そしてトレーラーの車輪に接触し、身体を強く打ってました。いつの間にか救急車で運ばれ、病院で検査を受けていました。顔にも擦り傷がありました。幸い異常なところがありませんでしたが、意識がすっかりしてから思い出してみると「何かが少しでもずれていたら、死んでいてもおかしくなかった」と思い、トレーラーが怖くなりました。数日後、警察の方が事情を聴きに来ました。事故の状況を話そうとしましたが、恐怖心のせいかな、言葉が詰まってしまう話せませんでした。そのとき、その警察の方が「怖かったのによく頑張ったね。」と言ってくれました。その言葉のおかげで、事故の様子を何とか伝えることが

できました。しかし事故で命の危機を体験したことは今でも忘れられません。

私には目指したい職業があります。それは警察官です。私はあるときの警察官のように、市民のみなさんの安心・安全を守るような存在になりたいです。そして岩寄さんのような交通事故で大切な家族を失った被害者の方を少しでも減らしたいとも思っています。

私もし警察官になることができたなら、地域の人々が参加できる交通安全教室を企画したいと思っています。交通事故の怖さを伝え、事故の未然防止に取り組んでいきたいと思っています。もしかすると岩寄さんに講演をお願いするかもしれません。どのような形で実施できるかまだ分かりませんが、多くの人々が事故を起こさないという気持ちを常に持つてるようにしていきたいと思っています。

岩寄さんの「命は自分のものだけではない」という想いは、私たちの中だけに留めておくのではなく、たくさんの人々に伝えることで、交通事故が減るのではないかと思っています。

